

第6回大宮グランドセントラルステーション推進会議

まちづくり推進部会 主なご意見等

開催日時：平成29年11月22日（水）15:00～17:00

開催場所：大宮区役所6階大会議室

出席者

選出区分	役職等
学識経験者	東京大学 大学院工学系研究科 窪田 亜矢 教授
地元まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 会長
地元まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 会長
地元まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 副会長
地元まちづくり団体	大宮東口駅前街づくり会 会長
地元まちづくり団体	大宮東口駅前街づくり会 事務局長
地元まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
地元まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 専務理事
関係行政機関	さいたま市 都心整備部長（職務代理）
関係行政機関	さいたま市 大宮区 区民生活部長（代理）
デザイン コーディネーター	アーバンデザインセンター大宮 サブディレクター（代理）
オブザーバー	都市再生機構（東日本都市再生本部 事業企画部） 事業企画第2課 課長

■第5回大宮グランドセントラルステーション推進会議に向けた
作業内容 【⇒事務局からの回答】

- ・検討視点において、まず「安全性」や「利便性」の視点から確認を行うと記載があるが、地権者・事業者の視点では、事業採算性が非常に重要である。まちづくり推進部会において、各地区からの意見を踏まえた上で事業採算性を検討していくのか。

⇒まちに魅力を与えるという観点と事業採算性という観点からこれまでもスタディパターンを用いて部会で議論してきたところである。事業採算性について、どの段階で確度が高いものが示せるかということについては難しい課題でもある。

- ・スタディパターンの絞り込みと事業採算性の検討とを並行して実施すべきと考える。
- ・先日、西地区の全権利者を対象とした全体会を開催した。これまでは、通知を出しても役員等の参加しなかったところ、参加はいただけなかったにせよ、欠席の返信をこれまで以上にいただくようになった。これは、市をはじめ関係各位の方々の尽力により、大宮駅東口のまちづくりに対する機運が少しずつ高まっている現れだと感じている。
- ・北地区では、自分達の地区内でどのようなものを作っていくべきか、事業採算性も含めて、専門家にも入っていただきながら検討をしていきたいと考えている。検討した結果について、現行のスタディパターンなどの検討と差異がある可能性があるが、それも含めて、地区としての検討成果をぶつけていきたいと考えている。

■大宮駅グランドセントラルステーション化構想（案）の策定に向けた検討

- ・「大宮のまちの価値・魅力」について、守るべき価値と創るべき価値とが示されているが、まだ他にも要素があるのではないかな。
- ・意義ある再開発事業としていくためには、関係者のみなさんが一体となって実現したいと願える夢を描いて共有する必要がある。
- ・東日本の対流拠点としての機能を求められていることは重い話題ではあるが、大宮駅が大規模なターミナル駅であることは間違いなことである。都市再生緊急整備地域の指定も受けていることから、事業所等を誘致しやすい環境にはなっていると思う。一般的な駅周辺の状況と比較すれば、いろんな選択肢が残された地区だと思う。
- ・今後の議論を深めるためにはどうすればよいかということについて、検討すべき項目が多すぎる印象であるため、必要性を鑑みて項目を減らしてもよいのではないかと考える。
- ・室内競技を前提としたスポーツ産業の導入が必要であると感じる。比較的規模の小さい室内競技で、国際大会などを誘致できるような施設が必要ではないかと考える。

■まとめ

- ・都市機能の項目において、「東日本の玄関口に相応しい拠点性」という文言があるが、既存の大宮駅周辺での事業所がなぜ大宮に事務所を置いているのか、商業機能よりも事業所機能に力点を置いた方がいいのではないかなど、次のステップに繋がるような検討をしていくべきである。
- ・資料7に記載された文言については了解をいただいた。構想に係る全体が一気に決まっていくわけではなく、まちづくりに関わる方々がみんなで作っていかなければならない。そのための方策としては、ガイドラインなどのルール作りということもあると思う。駅と街とを繋ぎ方を示した絵など、ポイントとなるような部分をしっかり示しながら、次の検討につなげていきたい。